

「企業の森」かわら版 No.4

AUTUMN 2021



「東芝府中・青梅の森」



企業の森の「いま」



3~5... 2021年 秋・企業の森の様子
獣害防護柵を設置した「企業の森」



「東芝府中・青梅の森」



「あくなき創造の森」

花粉の少ない森づくり運動 News & Information



6... 「東芝府中・青梅の森」で開始式を
行いました



7... 「企業の森・きらぼしの森」で下刈り
作業イベントを行いました





企業の森の「いま」



2021年 秋・企業の森の様子

 獣害防護柵を設置した「企業の森」

日を追うごとに涼しさが増し、山では紅葉がすすみ、赤、黄、オレンジに染まる山々の風景が、皆さんの心を癒してくれることでしょう。

ところで、森に棲んでいるシカは、8月下旬から11月頃にかけて角が生え変わります。落ちてしまった角が、実は「ネズミなどの小型哺乳類にとって貴重なカルシウムを摂取する栄養源になっている。」ってご存じでしたか？自然界に無駄なものってないのですね。

しかしながら、「企業の森」にとってのシカは、せっかく植えたスギやヒノキの苗木を食べてしまったり、苗木で角をこすったりするため、場合によっては苗木が枯死してしまうこともあります。このような被害から苗木を守る対策として、森の被害状況などに応じて**獣害防護柵**（以下、防護柵）を設置しています。

この秋は、二箇所「企業の森」に防護柵を設置しましたのでご紹介します。

一箇所目は、本年度から始まった「東芝府中・青梅の森」です。近隣の方から聞いた話では、「シカやタヌキはよく見かけていた。」とのことで、被害に遭う前の対策として防護柵を全面的に設置しました。

二箇所目は、植栽から三年目になった「企業の森・あくなき創造の森」です。こちらは、シカなどによる食害被害が見受けられたため、対策として被害があった一部の地域に防護柵を設置しました。

設置することにより、シカやその他の動物はその柵の中には入れなくなり、大切な苗木を守る効果があります。

動物たちの棲む森に防護柵を設置しないと植樹した苗木を守ることが出来ない。森と動物の共存って一筋縄ではいかないですね。紅葉を見て癒されることにしましょう。



「東芝府中・青梅の森」



獣害防護柵を設置しているところ

「東芝府中・青梅の森」に獣害防護柵を設置した様子です。

森全体の周囲に約3m間隔で杭を打ち込み、ネットを張っていきます。東芝府中・青梅の森でのネットの全長は約350mほど。

防護柵を設置したことで、安心して若い苗木たちを植える準備が整いました。

YouTube動画

「シカ柵で苗木をがっちり守ります」もご覧ください。

<https://youtu.be/5vkGmmievvg>



拡大

森全体を上空から撮影



獣害防護柵を拡大



「企業の森・あくなき創造の森」



防護柵を設置した山の一部分

拡大

あきる野市にある「企業の森・あくなき創造の森」では、森全体には防護柵を設置せず、シカなどによる食害などがあったエリアのみに設置しました。

この被害があったエリアは、山の麓に小川が流れているため、動物たちの水飲み場になっていると推測されます。

全長約200mの防護柵を設置したことで被害が軽減することでしょう。



小川

ドローンで真上から防護柵を撮影



花粉の少ない森づくり運動

News & Information



「東芝府中・青梅の森」で開始式を行いました

令和3年9月25日に東芝労働組合府中支部の皆さまによる新たな森づくりがスタートしました。

早朝より降っていた小雨は、植栽を始める頃にはやみ、土に湿り気がある良い状態で苗木を植えることができました。

植えられた苗木が「木材」として利用できるのは、少なくともあと35年先。下の写真の男の子が、立派な大人に成長する頃に「木材」として利用されることでしょう。

来年、再来年と大きく成長する苗木たちに大いに期待しましょう。



大きく育ててね。

(作業指導：東京都森林組合)



ヨイショ!

お父さんと一緒に頑張りました。



「企業の森・きらぼしの森」で下刈り作業イベントを行いました



令和3年10月5日に株式会社きらぼし銀行の皆さまによる下刈り作業イベントを行いました。

当日は30°C近くまで気温が上がり、秋にも関わらず夏のような日射しが照りつける中での作業となりました。

作業は二人一組になり休み休み順番に行いましたが、それでも、着ている服には汗がにじんでいました。

下刈りをしたおかげで苗木たちに太陽の光がそそぎ、さらに大きく成長することでしょう。

きらぼし銀行の皆さま、大変お疲れさまでした。

(作業指導：東京都森林組合)



とても暑かった森の様子



二人一組での作業の様子



作業指導を受け、丁寧に下刈りを行なっていただきました。



公益財団法人 **東京都農林水産振興財団**
Tokyo Development Foundation for Agriculture, Forestry and Fisheries

次号はWINTER 2022を発行します。

